

4 学年だより

～ Quest ～

令和2年7月29日

第14号



7月進研模試終わる

進研模試，おつかれさまでした。自己採点の結果はどうでしたか？結果が皆さんに返却されるのは9月の予定です。

そういえば，以前登録した進研模試デジタルサービスですが，解説動画や振り返りツールがあります。活用してください。

さて，解き直しは進んでいますか。今回の模試で，自分の強みや弱点が見つかったと思います。今回の結果に一喜一憂することなく，冷静に分析して，それぞれ対処していきましょう。

「模試は振り返りが命」，多くの卒業生がそう言っています。今後も模試があります。この繰り返して，皆さんの力は着実に伸びていきますよ。



今できる受験勉強

以前，複数の生徒から質問のあった「今できる受験勉強とは何か？」という問いに答えまます。国語，数学，英語の3教科について，授業担当者に文章を書いてもらいました。参考にしてください。

具体的なアクションが書いてあります。読むだけではなく，実際に行動に移しましょう。まずは一步を踏み出しましょう。小さな一步でも踏み出すことが大事です。そこからすべてが始まります。





現代文：

(1) ノートの使い方を工夫しよう

ノートをとる際に心がけるべきことは、板書以外の先生の説明もしっかりメモするということです。特に、授業中に先生が発した質問は、テストで出題されるポイントであることが多く、テスト対策という意味でも、その質問と答えは必ず書き留めておきましょう。同時に、クラスメイトが間違えた答えも一緒にメモしておくのがおすすめです。間違いやすいところがわかるので、テストで注意すべきポイントが明確になります。

(2) 正しく読む力が、書く力につながる

「読めるが、書けない」という悩みをよく受けることがあります。「書く」ことを特殊で独立した才能のように考えてはいませんか。読んだ結果を用いて解く、これが記述問題における原則です。例えば、「傍線部Aはどのようなことか。八十字以内で説明せよ」という問題があるとします。簡単に言えば、この問題が要求しているのは、その「傍線部A」の「説明＝言い換え」をしている本文中の(傍線部A以外の)箇所を発見せよということです。「八十字以内」であれば、本文中の要点箇所のうち、2～4箇所を正しく組み合わせ、～ということ。という形にまとめるだけであるので、特別な表現能力などは必要ありません。読解中に要点箇所が的確に発見できていることと、傍線部を含む一文が正しくとらえられていることとが、記述解答の成否のカギです。

小説や随想などでもよくありますが、時には傍線部の説明に本文中の表現が使えない場合もあります。例えば、本文中に「声を忍ばせて泣いていた」「身を切られんばかりの思い」とあっても、それをそのまま解答に用いて、「声を忍ばせて泣く気持ち」「身を切られるような心情」と書けば、おそらく0点でしょう。比喩的・象徴的な描写は、解答として求められている「説明」にふさわしい表現ではないからです。こういう場合は、それにふさわしい平常表現に書き換える必要があります。「悲しみを抑え込もうとする様子」「大変なつらさであること」と書くのです。いわゆる「自分の言葉で書く」というのは、こういう場合だけです。それ以外は、本文中のキーワードを用いて書きます。「正しく読み、正しく考える＝書ける」のです。

(3) 本を読みましょう

新聞の社説やコラム記事は大学入試の現代文問題に採用されるような「難しい文章」ではありません。したがって、大学入試に向けた現代文対策としては、効果はあまり期待できません。そこで、入試問題で採用される文章として、新書や選書などをおすすめします。学習の姿勢としては、この段落の要点箇所はどこかを常に意識して読んでください。

古文：

○基礎固めをしよう

単語、文法がポイントです。この二つが古文の基礎力になります。英語と同じく、現代の用法とまったく違うので、今の私たちにとっては「外国語」です。単語帳で繰り返し覚え、少しずつ知識を増やしましょう。文法は、助動詞と敬語が重要になってきます。まずは、助動詞を正確に暗記しましょう。特に助動詞の接続をきちんと覚えておかないと、入試では命取りになります。この後も、引き続き助動詞の確認テストを行っていきますので、覚え込みましょう。

漢文：

○基礎固めをしよう

句形や句法が必須です。これは、「明説漢文」を勉強のお供にして、授業や課題の問題で出てきた句形をその都度チェックしていきます。また、句と句とが、どのように接続しているか(順接か逆接か、条件と結果、対比、並列・列挙など)の確認も行っていくましょう。

古典は、基礎力を身に付けると同時に読解演習を通して、主語などを補足するなどの応用力を身に付けましょう。

数学：



- ・ここまでの学習内容は、数学Ⅰの「数と式」「2次関数」の2項目。
「数と式」の分野では、特に『絶対値や平方根の取り扱い』を正しく理解することが重要。
また、「2次関数」では、今後学習する様々な関数において、『置き換えると2次関数になる→最大値・最小値を求める』という活用が頻出であり、今のうちに完璧な定着を目指したい。
さらに、2次関数と2次方程式と2次不等式の関係性の理解も必要。その意味でも、3年時の『学年末考査』や、4年時の『春休み課題考査』『小中間考査』『中間考査』はいつでも解ける状態をキープしていきたい。

- ・まだ「高校数学」の内容をそれほど学習していない現状においては、実際の入試問題で解けるものは少ないため、「赤本」などで個別の大学の問題を演習する必要はない。そのため、この夏は「基礎力を高めること」に集中してもらいたい。

「受験生における基礎力」とは、『教科書の節末問題を確実に解ける力』。解けない要因は、

- ① 公式や性質などの『知識不足』
- ② 問題文の意図を読み取れない『読解力不足』
- ③ 何をすれば良いかわからない『経験不足』

に分類される。①は「公式まとめノート」を作って、教科書から公式や性質を自分でまとめると良い。②と③は「解けなかった問題」が最良の教材となる。『模範解答の丸写し』では何の学習効果も無く、「なぜこの手法なのか」「何(どの値)があれば答えに辿り着けるのか」を納得いくまで考え、自力で解けるまで何度でも繰り返し演習する必要がある。

①～③が備わって初めて『思考力(経験のないタイプの問題に対する対応力)』を必要とする難問に取り組む意味が出てくる。初めから青チャートに手を出すより、教科書やサクシード(または授業のテキスト)をしっかりと解けるように演習することが大切。

さらに、どんな場面においても「1秒でも速く、正確に」を意識すること。普段ダラダラと演習している者がいざという場面で急ぐと、計算ミスや凡ミスを繰り返してしまう。

- ・上記の2点を既にクリアしている者は、青チャートで力を高めていきたい。青チャートが完璧に理解できていれば、中堅国公立大学の入試問題に十分対応できる力が備わる。難関大学を目指す者も、各大学個別の「赤本演習」は5年の秋以降で良い。焦らず、土台となる力を着実に身につけたい。



英表：

1. 「beの教科書」と「be総合英語」の内容が、高校3年間の基礎となる文法事項です。5年、6年では、構文などで形を変えながら、繰り返し演習していきます。学校で学習している「be総合英語」の文法事項をその都度よく読み、課題などの問題を解いているときに分からない事項について、確認するようにしてください。とにかく4年生で1冊分の基礎をマスターしましょう。基本の文を暗唱するのも、よい方法です。

2. 「システム英熟語」は、試験本番まで日々隙間時間の学習に利用してください。朝テストなどで覚えきれていないものは、チェックして、何度も繰り返して覚えましょう。

3. 授業などで知らない単語はできるときは、単語帳を作って、表に英語、裏に日本語を書きます。それにどんどん書いていき、これも隙間時間に見るようにするのをおすすめします。覚えたものは、捨てていけば、自分だけのオリジナル単語帳になります。

コミュ英：

1. CROWN 教科書を、長文読解演習に活用すべし。

→課題で出される予習プリントでは、最初に、本文についての Question に目を通し、次に答えを探しながら本文をざっと読む。1 セクションに時間をかけ過ぎず、(3分程度)、短時間に長文から必要な情報を読み取る練習を意識しよう。

2. CROWN 教科書を、語彙の定着に活用すべし。

→教科書に出てきた語彙・表現を全て覚えよう。内容を理解した上で、授業内外で音読をすることにより語彙が定着します。各レッスン後の暗唱も、語彙や表現の定着に良い活動です。復習活動として、自宅で教科書 CD のシャドーイング音読もやろう。

3. Tetra を、外部試験や模試を意識して活用すべし。

→課題で使用している Tetra には、GTEC や英検などを意識した問題が満載です。また Reading 素材は新傾向入試で使用されることの多い、広告や掲示板、メール読解が中心です。

Writing のパートでは、自分の意見や考えを端的に表現する練習ができます。制限時間を意識し、また「●次の表現を使おう」に出てくる表現を使いこなせるようになれば、模試の英作文での得点アップにつながります！

以上、英語では、手持ちの教科書・副教材を 100%フル活用して、基本文法と語彙表現の定着に力を入れよう。

課題は出すためにやるのではなく、「何の力を付けるための課題なのか」を意識して、緊張感を持って取り組もう！

新たな目標



定期テスト、模試が終わりました。新たな目標として何か始めてみませんか。夏休み(8/7～8/16の10日間)に向けて計画を立てるものいいかもしれません。日々の課題、夏休みの課題もあるでしょうが、少し自分に負荷をかけてみてもいいのではないのでしょうか。適度な負荷は自分を成長させますよ。



新潟県立村上中等教育学校

TEL 0254-52-5115

FAX 0254-53-6773

学校ホームページ URL

<http://www.murakami-ss.nein.ed.jp/>

電車不通時の連絡

mrk-ss.16@murakami-ss.nein.ed.jp